

患者さんへの情報公開文書

「静電容量型センサ素子を用いた足関節不安定性評価」

はじめに

足関節捻挫はスポーツ活動や日常生活において起こりやすいケガのひとつです。足関節捻挫に伴う足関節外側靭帯損傷は通常自然に治癒することが多い一方で、約 20%の確率で陳旧性となり、捻挫を繰り返し、慢性足関節不安定症になると報告されています。足関節不安定症は痛みや不安定感、スポーツ活動制限などの支障を来し、追加の治療が必要となります。治療方法を選択する際に不安定性の程度を知ることが重要ですが、現在の検査では十分ではありません。

研究対象

2019年8月8日から2021年3月31日までに、足関節捻挫による足関節不安定性を主訴として札幌医科大学附属病院を受診した患者さんが対象です。予定症例数は50例です。

研究内容

通常診察において、足関節不安定性（前方引き出し、内がえし）を評価します。同時に薄い布製バンドで加工された静電容量型センサ素子を装着したサポーターを装用し、徒手検査と同様に前方引き出し量と内がえし量を計測します。また、レントゲン撮影室で前方引き出しストレスと内がえしストレスを加えてのレントゲン撮影を行います。レントゲン撮影の結果と静電容量型センサ素子による計測結果との関係を調べます。

患者さんの個人情報の管理について

- ・ 個人情報の漏洩を防ぐため個人を特定できる情報は削除しています
- ・ 研究結果の公表（学会や論文等）の際には患者さんを特定できる情報は一切含まれません
- ・ 研究の目的以外に患者さんのデータを用いません

患者さんがこの研究に診療データを提供したくない場合の措置について

2019年8月8日から2021年3月31日までに受診した患者さんの中で、この研究に診療データを提供したくない方は、下記までご連絡ください。参加しない場合や同意を取り消した場合でも、患者さんに適切な治療を行い、治療上、不利な扱いを受けることや、不利益を被ることはありません。

ただし、ご連絡を頂いた時点ですでに、研究結果が論文などに公表されている場合や研究データの解析が終了している場合には、解析結果からあなたに関するデータを取り除くことができず、研究参加を取りやめることができない場合があります。

研究期間

2019年8月8日から2021年3月31日までを予定しております。

利用する情報

カルテ情報：年齢、性別、身長、体重、静電容量型センサ素子による計測結果

画像情報：レントゲン画像

医学上の貢献

研究成果は、軟骨変性の進行予防や治療選択の基準を定める一助となる可能性があり、患者さんの治療と健康に貢献できると考えます。

問い合わせ先

〒060-8543 北海道札幌市中央区南1条西16丁目

札幌医科大学附属病院 整形外科

研究責任者：寺本篤史

研究分担者：渡邊耕太，神谷智昭，村橋靖崇，山下敏彦

【平日】整形外科学教室 tel 011-611-211（内線 33330）

【休日・時間外】附属病院4階西病棟 tel 011-611-2111（内線 38480）